

令和7年度
令和7年度

租税教育実践発表会
租税教育実践発表会

石巻地区租税教育推進協議会

次 第

1 開 会

2 開会挨拶 石巻地区租税教育推進協議会会長
(東松島市教育委員会教育長)

3 実践者紹介 (発表者)

石巻市立向陽小学校	教諭	綿 引 達 也
石巻市立石巻中学校	教諭	三 浦 和 真
東松島市立矢本第一中学校	教諭	内 海 佳 美

(資料提出者)

石巻市立石巻小学校	教諭	阿 部 辰 朗
石巻市立住吉小学校	教諭	及 川 ゆかり
石巻市立万石浦中学校	教諭	佐 藤 大 樹

4 実践発表

5 質 疑

6 閉会挨拶 石巻地区租税教育推進協議会副会長
(石巻税務署長)

7 閉 会

実践発表会資料

石巻市立向陽小学校

教諭 綿引達也 1

石巻市立石巻中学校

教諭 三浦和真 8

東松島市立矢本第一中学校

教諭 内海佳美 21

石巻市立石巻小学校

教諭 阿部辰朗 26

石巻市立住吉小学校

教諭 及川ゆかり 32

石巻市立万石浦中学校

教諭 佐藤大樹 37

租税教育の実践について

石巻市立向陽小学校
教諭 綿引 達也

発表の流れ

- 1 租税教育の指導過程について
- 2 租税教育の取り組み 実践
- 3 児童の感想

租税教育の指導過程（4時間）について

- ① 社会科の政治分野としての学習（1時間）
- ② 租税教室（1時間）
- ③ 国語の討論単元での学習（1時間）
- ④ ICTを活用したまとめ（1時間）

租税教育の取り組み 実践①

社会科の政治分野としての学習

- 税金ってなんだろう？
- どうして税金が必要なの？
- 何に使われているの？

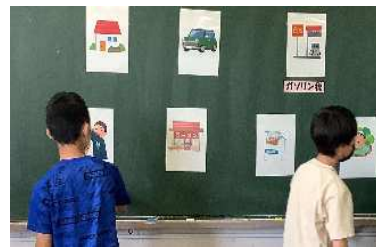
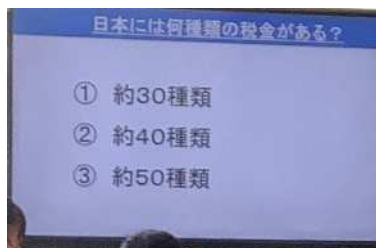
税金は、人々の暮らしを守り、よりよい暮らしにするために使われるものである。



租税教育の取り組み 実践②

租税教室を通しての学び

○税金について知る。



租税教育の取り組み 実践②

租税教室を通しての学び

税金の使い道を考える。

お金の重さを知る。



租税教育の取り組み 実践③

国語の討論单元での学習

6年生「話し合って考えを深めよう」

学習のねらい 将来、社会の担い手として税金の正しい使い方を考えたり、異なる立場の意見を聞くことで、新しい見方を見つけたりすることができるようにする。

話し合いの議題

①遊び場と勉強道具 どちらに税金を使うべき？

②税金を観光やイベントに使うのは良い？ 悪い？

話し合いの様子

①遊び場と勉強道具 どちらに税金を使うべき？

遊び場→

- 雨の日や暑い日に遊べる施設は必要。
- 子供が遊べる環境を作って、様々な人と交流させるべき。

勉強道具→

- 勉強するためにお金がかかると大変。
- 勉強する環境を整えることは大事。

②税金を観光やイベントに使うのは良い？ 悪い？

良い→

- イベントで地域が盛り上がれば、経済が盛り上がる。
- 観光客が増えたり、地元の人も楽しい気持ちになれる。

児童からは「悪い」という意見は出ませんが、本当にそうなのか？
チャットGPTを活用し、デメリットも確認しました。

チャットGPTから出た デメリットから考えたこと

- たくさん観光客が来るのはいいが、ごみや騒音の問題が起きてしまう。
- イベントが失敗してしまうかもしれない。
- 生活を支えるために税金が使えなくなってしまう。



観光客が増えたり、地域が盛り上がりつつあるけれど、マイナスなことも考えないといけないことを実感しているようだった。

税金を使うときには、「何のために」「何を大事にするのか」「住民のためになっているか」を考える必要があることを学ぶ機会になった。

税金の使い道の正解を決めることは難しいかもしれないけれど、一人ひとりが税金に興味関心を持ち、自分の考えをもつことが社会参画への第一歩だと考えます。

租税教育の取り組み 実践④

ICTを活用したまとめ

- 税金に関するポスター作りをグランドデザインツールで共同編集をしながら行う。

学習の流れ

- ①キャッチコピーを考える。
- ②グランドデザインツールの中から参考になるレイアウトを見つける。
- ③自分たちのイメージに合うように、イラストや写真、言葉を入れ替える。
- ④発表

児童が作った作品



税金について学んだ児童の感想

- 「税金なんて知らない！」って思っていたけど、税金が日本を支えていることが分かりました。税金を使って日本をよりよくして欲しいなと思いました。
- 自分たちの環境を整えてくれることに感謝の気持ちをもたなくてはならないなと思いました。
- 納税をすることが国を変えるきっかけになることが分かりました。税金の大切さが分かりました。



租税教育の実践



石巻市立石巻中学校
教諭 三浦和真

石巻中学校について

- ▶ 全校生徒 320名
- ▶ 石中心得

自主 進んで挑戦し 自律 自分を高め 品位 凛とした心と形

平成19年度卒業生一詞

石巻中学校について

- ▶ 全校生徒 320 名
- ▶ 実践スローガン

〈石中実践スローガン(3つのC)〉

CHANCE CHALLENGE CHANGE

- ▶ 礼儀正しい生徒が多い
- ▶ 行事等への取組が熱心

石巻中学校 3年1組 (32名)

- ▶ 聞くときと話し合うときのメリハリがついている。
- ▶ 学習課題に対して粘り強く取り組める。
- ▶ 社会科においては、自分の考えを文章で表現できる生徒が多い。



発表の流れ

- 1 中学校における租税教育の概要
- 2 実践について
- 3 成果と課題

1 中学校における 租税教育の概要

学習指導要領より

- (2) 国民の生活と政府の役割
- 対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
- ア 次のような知識を身に付けること
- (イ) 財政および租税の意義、国民の納税の義務について理解すること
- イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。
- (イ) 財政および租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現すること。
- (内容の取扱い)
- 「財政および租税の役割」については、財源の確保と配分という観点から、財政の現状や少子高齢社会等、現代社会の特色を踏まえて財政の持続可能性と関連付けて考察し、表現させること。

学習指導要領解説より

- 国民や住民が受ける様々な公共サービスによる便益と、それにかかる費用に対する負担など財政の持続可能性にかかわる概念などと関連付けて多面的・多角的に考察し、表現できるようにする。
- 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化とその財源の確保の問題をどのように解決していったらよいか。税の負担者として自分の将来と関わらせて、税制度について考察したことをまとめたり、説明したりする活動を取り入れるなどの工夫をすることも考えられる。

今回の租税教育の目的

- ▶ 財政および租税の意義、国民の納税の義務
- ▶ 財政の持続可能性
- ▶ 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化とその財源の確保の問題をどのように解決していったらよいか。

以上を踏まえて・・・

今回の租税教育の目的

- ▶ 租税の意義や役割を正しく理解し、使い道に関心を持ち、納税者として社会や国の在り方を主体的に考える。

2 租税教育 授業での取り組み

2 租税教育 授業での取り組み

時数	ねらい・学習活動
1	<ul style="list-style-type: none">・税に関するクイズを提示し、生徒の関心を惹きつける。・歳出の中でも、社会保障費が最も多く、増加している理由を理解する。
2	<ul style="list-style-type: none">・消防・救急を題材にして、適切な税の使い道について自分の言葉で表現する。
3	<ul style="list-style-type: none">・財政における日本の課題を踏まえ、税収が不足した時の対処法を調べ、表現する。

1 時間目 税に関するクイズ

- ▶ 「日本の税収はいくらか」
- ▶ 「中学生一人当たりの公費負担額はいくらか」
- ▶ 「石中の改修工事費用はいくらか」

1 時間目 税に関するクイズ

▶ 生徒の感想

「改修費が思ったよりも高くて驚いた」

「このまま税が増えていったら、自分たちが働くころには、もっと上がっていきそうで怖い」

「若者に投資しない理由はなぜなのか」

2 時間目 日本の公共サービスの今後は？

① アメリカでの火事の話

Aさんの家が火事になった。しかし、消防隊は消火活動を行わなかった。やがて、Bさんの家へと燃え移って初めて消防隊が出動した。

なぜ消防隊が出動しなかったのか？

2 時間目 日本の公共サービスの今後は？

▶ 生徒の考え

「小さな火事だった」

「消防署がいたずら電話だと思った」

「Aさんが悪者だった」

「火災保険を払っていなかった」

「納税していなかった」

→数人のみ

2 時間目 日本の公共サービスの今後は？

②日本の公共サービスは無料で継続すべきか、有料化するべきか。



2 時間目 日本の公共サービスの今後は？

▶有料派の意見

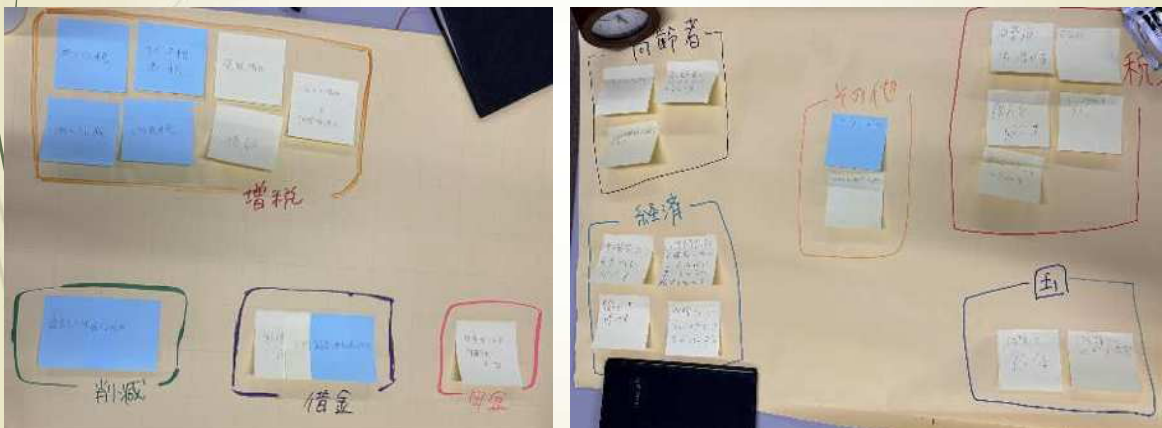
不要不急の利用が増え、必要な人に資源が行き渡らなかつたり、社会保障費が増えて将来世代に負担を残すのはいけない。

2 時間目 日本の公共サービスの今後は？

無料派の意見

憲法にも書かれているし、有料にしたときに、お金を払っていなくて本当に必要な時に公共サービスを利用できないとなると大変だから。

3 時間目 税収が不足した時の対処法を发表しよう



3 時間目 税収が不足した時の対処法
を公表しよう

▶ 短期的な対処法（生徒の意見）

消費税を増やす たばこ税を増やす
酒税・ガソリン税・国債・地方債の発行
歳出の削減 国会議員の給料を減らす
囚人にかけるお金を減らす


3 時間目 税収が不足した時の対処法
を公表しよう

▶ 長期的な対処法（生徒の意見）

好景気をもう 1 回起こす 輸出を増やす
収入を増やすことで所得税を増やせる
カジノを日本に作る 年金支給年齢の引き上げ
子どもを産んだらお金がもらえる



3 成果と課題



成果

- ・ 具体的・身近な事例で理解促進
- ・ 税や社会課題への関心喚起
- ・ ChatGPT活用による情報整理と授業設計

課題

- ・ 差別的・倫理的に問題のある意見の出現
- ・ 社会的弱者への理解不足
- ・ カリキュラム設計の課題

ご清聴ありがとうございました

租税教育の実践発表

～租税教室を通して～

東松島市立矢本第一中学校
3年1組 37名
発表者：内海佳美

矢本第一中学校 3年1組37名

- 最後まで課題に粘り強く取り組む生徒が多い。
- 「探究と協同の学び」のスタイル（4人班）で協力しながら学習を進めている。
- 仲間の考えを尊重しながら、学習を進める姿勢が見られる。



学習指導要領との関連

- 学習指導要領「B私たちと経済」、(2)「国民の生活と政府の役割」に位置付けられている。
- 税の意義や納税の義務を理解することを通して、公共財の提供や持続可能な社会の形成について考えることを目的としている。

中学3年生公民分野 税に関する指導計画

学習内容	学習目標	評価規準
導入 私達の暮らしと税金 (本時)	税の使い道や負担のあり方に関心を持ち、自分ごととして考える姿勢を持つことができる。	ゲストティーチャーをお招きし、3年生を対象に租税教室を実施
1 私たちの生活と財政	私たちが納める税金の種類や仕組みについて、理解する。	私たちが日常生活の中で納めている税金について理解できる。(知識・理解)
2 財政の役割と課題	政府の財政政策と景気との関係について、公共投資や民間企業と関連付けながら考察し、表現する。	政府の財政政策と景気との関係について、公共投資や民間企業と関連付けながら考察し、表現できる。(思・判・表)
3 社会保障の仕組みと課題	これからの社会保障制度について、持続可能性の観点から考察し、表現する。	これからの社会保障制度について、持続可能性の観点から考察し、表現できる。(思・判・表)
4 少子高齢化と財政	少子高齢化の財政への影響について理解する。	現役世代が納める保険料の負担が大きくなっている理由について理解できる。

■ 中学3年生これまでの税に関する学び

• 歴史

時代	税に関する主な学習内容
古代	租庸調、 班田収授法による課税制度
中世	荘園制度と年貢
近世	太閤検地による年貢の整備、 幕藩体制下の税制度
近代	地租改正（1873年） 税の現金納付制度の導入
現代	消費税の導入（1989年）

• 地理

過疎地域の人口減少
と高齢化

⇒ 地方税収の減少、
公共サービス維持困難

租税教室①

• 税の種類

「10種類？」

「30種類？」

「50種類？」

• 国民の三大義務



租税教室②

税の使い道



税ってどう役立っているの？①

くらしに役立つ税 税は、わたしたちみんなが、平等で安全に楽しく生活するために、公共施設以外にいろいろなかたちで使われています。税がみなさんの身近なところで、どんなふうに使われているか、考えてみましょう。

わたしたちの安全を守るために

警察官・消防員
消防車・消防車
救急車・救急車
消防士・消防士

租税教室資料から

租税教室③

• 公平な税負担

「平等に税を負担することが公平なのではないか」

「収入に応じて、負担率を変えるべきではないか」

「様々な人がいて決められない」といった声が上がった。

ワーク

橋を作るために税金を集めよう！

住居があるのは公平になるように、橋を作ることに決めました。橋を作るのに500万円が必要になります。そこで、税金を公平に負担する人を探さなければなりません。収入に応じて負担率を決めよう。負担率を公平にする。収入に応じて負担率を決めよう。収入に応じて負担率を決めよう。

氏名	年収	税	Aさんのコメント
Aさん	700万円	100万円	収入の半額は税金だ！
	残	800万円	
Bさん	200万円	100万円	負担になるから負担はしよう
	残	100万円	
Cさん	100万円	100万円	生活が詰って負担できない
	残	0万円	
計		500万円	

このままでは文化的な伝統の生活を営むのに60万円必要です。

一生懸命働いて「公平」に決めよう！
誰かが負担する立場だったらどう思いますか？
Aさん、Bさん、Cさん、それぞれの立場になって考えてみましょう。

租税教室資料から

生徒の声

- 「自分たちの身の周りには、いろいろな税金があることが分かりました。」
- 「中学生はたくさん税金にお世話になっていると知った。」
- 「税金は高齢者の生活を支える年金にも使われていることが分かった。」
- 「前まではあまり関心が持てなかった話題だけど、世界にある税や宝くじの話など、興味深いものがあった、おもしろかった。」

成果と課題

成果

- 租税教室を通して、税の知識が深まり、社会とのつながりを実感することができた。

課題

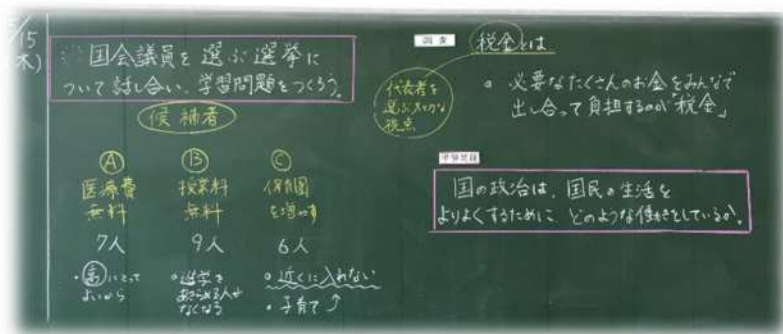
- 税に関する内容は多岐にわたり、1時間では情報量が多く、難しいと感じる生徒もいた。

今後の授業

- 内容を段階的に整理しながら、身近な例や体験的な活動を取り入れることで、生徒の理解と興味を深めていきたい。

令和7年度

租税教育実践発表会資料



石巻市立石巻小学校

教諭 阿部 辰朗

1 はじめに

本校は、明治6年6月4日(1873年)に開校し、開校以来、歴史と伝統を重んじた教育活動を進めてきた。昭和30年代には児童数が1800名を超える年度があったが、市周辺部の住宅団地の造成、東日本大震災の被害等により児童数が年々減少していった。平成27年度に門脇小学校と統合し、本年度の児童数は238名、学級数は13学級となっている。

学区内には裁判所、検察庁などの官公庁が所在している。山の手地区には市図書館や市総合体育館、県立・市立高等学校、中学校、私立幼稚園などの文教施設、また、学校周辺には古くからの商店街があり、教育環境に恵まれている。

本校は、「よく学び、心身共にしなやかで、たくましい児童の育成を図る」を学校教育目標に掲げ、「明るく、たくましい児童」「正直で、思いやりのある児童」「自分の意志と力で行動する児童」「根気強くやり遂げる児童」「自ら学び、深く考える児童」を目指す児童像としている。また、「知育(あたまそだて)」「徳育(こころそだて)」「体育(からだそだて)」の三つが調和する教育課程を編成し、それらの根本を支えるものとして、「食育(いのちそだて)」を位置付けている。

【校訓五箇条】

知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指し、日々人間として成長していくことを願い、本校第11代校長：錦織玄三郎先生が明治39年に制定した「校訓五箇条」を継承し、本校の教育活動の柱としている。



- 一 げんきよくせよ (心身共に健康であること)
- 一 まじめにせよ (勤勉であり、誠実であること)
- 一 ひとりでせよ (自主的・自律的であること)
- 一 よくこらえよ (忍耐強くあること)
- 一 しかとおぼえよ (学業に打ち込むこと)

(明治39年4月1日制定・平成17年4月1日復活)

2 児童の実態

本校の6学年の児童は、生活経験やテレビ等の情報から、「消費税10%」「食品の消費税は8%」「軽減税率」「増税・減税」など、身の回りにある身近な税に関する言葉を知っている。また、税金が私たちの暮らしを支えていることを知っている児童が多い。一方で、消費税以外の税金の種類や、税金が具体的にどのように使われているのかということについては十分に理解していない児童も多い。中には、「税金は無い方がいい」「消費税が無くなればいい」と話すなど、税金に対して否定的な思いを持つ児童もいる。

3 指導に当たって

以上のような児童の実態を踏まえ、税に対する基礎的な知識を身に付けさせるだけでなく、税金の集め方や使われ方に関心を持ち、主権者として社会の在り方を主体的に考える意識を育てていきたい。

そのために、次の4つの手立てを講じていく。

【手立て①】 税の意義と役割について捉えさせる事前学習

憲法で定められている私たちの権利を学び、生活の安定と向上のための公共的事業の重要性を知ること、その財源となる税金の必要性について理解させる。

【手立て②】 税に関する基礎的な知識の定着を図る

税金の集め方や使われ方を調べ、税金についての基礎的な知識の定着を図る。

【手立て③】 学びを深めるためのゲストティーチャーの活用

石巻税務署、石巻法人会よりゲストティーチャーを招き、租税教室を行うことで、消費税以外の税の種類や具体的な税率などについての学びを深める。

【手立て④】 税についての学びと関連付けた事後学習

「税に関する絵はがきコンクール」に取り組むことで、税を大切にしようとする気持ちを育む。

4 指導計画（2時間扱い）

時 間	学習内容	指導上の留意点	評価規準
事前学習	動画の視聴 ・租税教育教材「マリンとヤマト不思議な日曜日」(国税庁動画)を視聴する。	○租税教育教材を視聴させ、税の意義と役割について捉えさせる。 【手立て①】	
1	授業 実践授業Ⅰ 「選挙のしくみと税金の働き」 ・選挙で代表者を選ぶ際に、税金の集め方や使い方が大切な視点となることを考える。 ・国民の代表である国会議員を選ぶ選挙について気付いたことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題を立てる。	○税金の集め方や使い方が、選挙で代表者を選ぶことと深く関連していることに気付かせる。 ○投票率が低下していることに気付かせ、選挙の役割や重要性について考えさせる。 【手立て②】	○選挙で代表者を選ぶことと税金の集め方・使い方のつながりについて考え、表現することができたか。 【思考・判断・表現】
2	租税教室 実践授業Ⅱ 「租税教室」 ゲストティーチャー： 石巻法人会女性部会 高橋 一美 様 石巻法人会青年部会 山下 英朗 様	○身近な「税」について関心を持たせ、私たちの暮らしと税金との関係について理解させる。 【手立て③】	○私たちの暮らしと税金が密接に関わっていることを理解しているか。 【知識・技能】
事後学習	税に関する絵はがきコンクール	○授業で学んだことを絵はがきで表現させる。 【手立て④】	

5 実践

(1) 税の意義と役割について捉えさせる事前学習

「マリンとヤマト不思議な日曜日」(国税庁動画)を事前学習として視聴した。親しみやすい内容だったこともあり、興味を持って見る児童が多かった。主人公が望みを話す場面では、「税金の無い世界」をお願いした瞬間、「え、大変なことになるんじゃない…」とつぶやく児童もいた。その後、税金の無い世界で主人公が混乱する場面を見終えると、「税金が無くなったら大変なことになる」「税金は大切だ」と話す声が聞かれた。事前学習を通して、税の意義と役割について考えさせることができ、税金が私たちの生活を支えているということを実感させることができた。



(2) 税に関する基礎的な知識の定着を図る

「国の政治のしくみと選挙」の単元の導入で、代表者を選ぶ際の大切な視点の一つが税金であることを取り上げた。児童は、私たちの生活や社会をよくするために国や都道府県、市町村が公共サービスを行っていること、また、それらに掛かる費用が税金で賄われていることを調査しながら学び、税金についての理解を深めることができた。

候補者	①	②	③
医療費	無料	授業料	無料
7人		9人	
④ ⑤	⑥	⑦	
④ ⑤	⑥	⑦	
④ ⑤	⑥	⑦	

税金の集め方や使われ方について個別学習で調査をし、全体共有した後、児童が考えた税金の説明。

(3) 学びを深めるためのゲストティーチャーの活用

石巻法人会の方々による「租税教室」から、所得税や自動車税、法人税など、様々な税があることを学んだ。児童は、消費税以外にも多くの税があることや、税収として70兆円ものお金が集まることに驚き、意欲的に話を聞いていた。最後に、一億円のレプリカに触れ、児童は実際のお金の重みと大切さを改めて実感していた。租税教室を通して、税についての理解が深まったと考える。児童の振り返りには、私たちの暮らしと税金との関係について考える記述や税の大切さを書いた感想が多く見られた。

【児童の振り返りの記述】

日本にはたくさん税があって、その税の使い道や、
税の役割などを知ることができた。そして税の大
切さを知ることができた。

税金があるおかげでみんなが安心してくれているので、
もし、税金がなかったら、わたしたちの生活は大変だと思
いました。

物を買う時に表示されている値よりも少し高いお金を
はらうのはなんでだろうと思っていましたが今日の学習
で「住みやすい国にするためには、はらっている事に気付いて、
自分のお金が社会に役立てられているんだと思い、うれ
しかったです。 > 気付いてよかったと思います。

【租税教室の様子】



(4) 税についての学びと関連付けた事後学習

税に関する絵はがき作りでは、どの児童も税に対する思いを一生懸命に表現していた。租税教育や社会科と往還した一連の学び、身に付いた知識・理解が存分に表れた作品が多く生まれた。



【児童が楽しみながら並べた「税」の字と、税に関する絵はがきの作品】

6 実践を終えて

今年度の租税教育は、租税教育教材「マリンとヤマト不思議な日曜日」を活用した事前学習や、ゲストティーチャーを招いての「租税教室」、社会科や他教科と関連させた学習など、「税」を視点に、教科横断的な学習活動を展開することができた。学習後には、児童から、「税金は大切なもの」「税金があるおかげで安心して暮らせる世の中になっている」「社会に役立てられている」という発言を多く聞くことができ、私たちの暮らしと税金が密接に関わっていることを理解した様子が多く見られた。租税教育の実践や社会科・他教科と往還した一連の学習活動が、児童の税についての基礎的な知識の定着、理解の深まりにつながったと考える。

今後も、社会科の学習で税に関する内容を取り上げながら、知識・理解を深めさせていき、主権者として社会の在り方を主体的に考える意識を育てていきたいと考える。

令和7年度

租税教育実践発表会資料

石巻市立住吉小学校

教諭 及川 ゆかり

1 はじめに

租税教育の目的は、「租税に関する意義、役割、機能、仕組み等の租税制度を知るとともに、申告納税制度の理念や納税者の権利及び義務を理解し、社会の構成員としての正しい判断力と健全な納税者意識を持つ国民を育成すること」である。租税に関する知識の学習はもちろんのこと、単に知識を習得させることにとどまるのではなく、その知識を基に考え実践する学習を行い、税の制度や政治、社会の仕組みに興味を抱かせ、税を通して社会を考えることによる民主主義の理解や主権者としての社会参画意識を育むことが大切である。

本校では、6年生の社会科の単元「わたしたちの生活と政治」における学習や、税理士による「租税教室」などを通して、児童に身近な税金について考えさせ、理解を深める機会を設定している。

2 本校の概要<明治34年5月17日開校：児童数104名>

住吉小学校は、石巻市の中心部に位置し、中央繁華街を含む平坦地にある。古来、太平洋や北上川による海上交通、陸上交通の要点として発達した地域であり、学校周辺には史蹟等が多い。平成23年の東日本大震災の被災により地域に大きな被害が出たが、北上川の堤防が整備されるなど、復旧してきている。

本校では、「自ら考え、共に歩み、未来を拓く子どもの育成」を教育目標として掲げ、「凡事徹底」を合言葉に、目指す児童像を「いのちを大切に作る子ども」「進んで勉強する子ども」「思いやりの心をもつ子ども」「がんばりぬく子ども」「きまりを守る子ども」としている。保護者や地域の教育に対する関心は高く、連携しながら、児童の健全な育成に努めている。

3 児童の実態

本校第6学年の児童は、男子7名、女子10名、計17名で構成されている。単学級ということもあり、互いを理解し合い、支え合いながら学習や活動に取り組む姿が見られる。

税に関しては、メディアの情報や日常生活の経験から、「消費税10%」「増税・減税」「未納・滞納」「税務署」などの言葉を知ってはいるものの、税金が何のためにあるのか、どのように使われているのかなどの具体的な内容についてはほとんど知らなかった。更に、「税金を払いたくない」「税金が高い」などのマイナスイメージを持っている児童も多かった。

4 指導に当たって

以上のことから、税に関する学習を通して、税に対する基礎的な知識を学ばせ、児童の正しい判断力と健全な納税意識を高めていくために、以下の3つの手立てを講じていく。

(1) 税に関する基礎的・基本的な知識の定着

- ・憲法で定められている権利と義務を学び、税金の意義について理解させる。
- ・石巻や学校周辺の復旧・復興に向けて使われた税金について理解させる。

(2) 学びを深めるためのゲスト・ティーチャーの活用

- ・税理士による「租税教室」を実施し、税の種類や使い道、税金の必要性などについての理解を深める。

(3) 他の教科や活動と関連付けた指導の継続

- ・「税に関する絵はがきコンクール」への作品に取り組みせ、応募する。

・他の教科や領域，児童の生活と関連付けた日常的な指導を継続する。

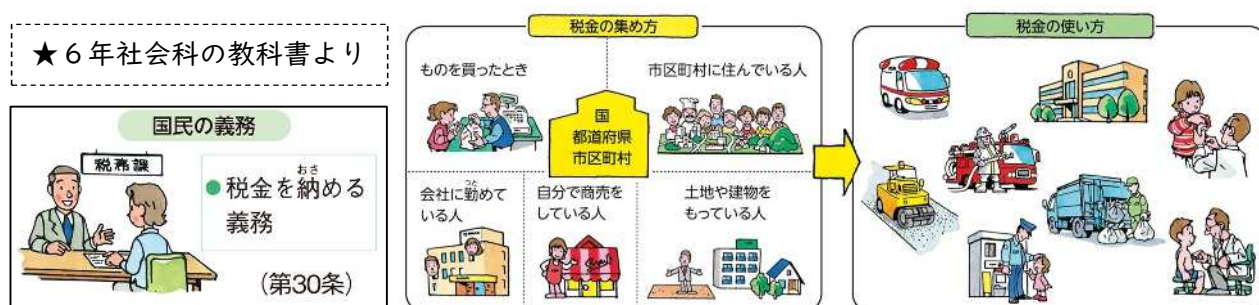
5 指導計画（4時間扱い）

時間	学習内容【手立てとの関連】	評価規準
1	授業 ○社会科「くらしの中の基本的人権の尊重」 ・国民の権利の保障と尊重 ・国民の義務（税金を納める義務） 【手立て①】	日本国憲法は，基本的人権の尊重の考えに基づいて国民の権利を保障するとともに，国民が果たさなければならない義務も定めていることを理解することができる。
2	授業 ○社会科「選挙のしくみと税金の働き」 ・税金の集め方や使い方と選挙との関連 ・安全な生活を守る仕事と税金との関連 【手立て①】	税金の集め方や使い方と，選挙で代表者を選ぶこととのつながりについて考えることができる。
3	租税教室 ○租税教室（ゲスト・ティーチャー） ・わたしたちの安心・安全な生活を守るための税金の働き ・税金の種類や必要性 【手立て②】	税金と自分たちの安心・安全な暮らしが密接に関わっていることを理解することができる。
4	授業 ○社会科「震災復興の願いを実現する政治」 ・震災直後の市や県，国の取組 ・復旧・復興に向けた国の支援 【手立て①】	石巻市や学校周辺の復旧・復興に向けて使われた取組と税金について理解することができる。
事後学習	○「税に関する絵はがきコンクール」への作品応募 ○防災タイム「石巻の人を救助するために」 ○日常生活の中での指導の継続 【手立て③】	

6 実践

（1）税に関する基礎的・基本的な知識の定着

社会科の単元「わたしたちの生活と政治」で，日本国憲法で定められている権利と義務が，自分たちの生活とどのように関わっているのかを取り上げた。基本的人権の尊重が保障されているとともに，それを支え，実現するために国民が納めた税金が使われていることを理解することができた。特に，学校，教科書など教育に関わること，消防署や警察などの安心・安全な暮らしを守るための働き，道路や橋，公園などの公共施設の整備など，多くのものが税金と深く関わっていることを知り，驚く児童が多かった。





いよいよ明日は国会議員選挙の投票日です。候補者がそれぞれ、最後の演説をしています。



A候補

今の日本は、高齢者の人口が増えています。安心して老後をむかえられるように、65才以上の国民の医療費を無料にすることが必要です。

新型の感染症の拡大で、収入が減り、教育の費用に困っている家庭が増えています。高校と大学の授業料を無料にすべきです。



B候補



C候補

保育園などに子どもを預けられない家庭がたくさんあります。安心して子どもを預けて仕事ができるように、保育園の数を増やすことが必要です。

(2) 学びを深めるためのゲスト・ティーチャーの活用

本校では、毎年、6年生の社会科の授業と関連付け、「租税教室」を実施している。今年度も、税理士をゲスト・ティーチャーに迎え、税に関する講話をしていただいた。



動画資料：「マリンとヤマト 不思議な日曜日」(国税庁)より



動画視聴を通して、主人公の気持ちに共感しながら、「もし、税金がなかったら」という生活を具体的に捉え、税金の役割について考えることができた。

また、税理士さんから消費税以外の税金の種類や税率の違い、世界の国々の税金の違いと保障などについても教えていただいたことで、児童の学びが更に深まり、より自分事として税金の意義を

捉える変容が見られた。

(3) 他の教科や活動と関連付けた指導の継続

社会科の学習や租税教室での学びをアウトプットする機会として、「税に関する絵はがきコンクール」への作品に取り組みさせた。児童一人一人が理解したことや税金の大切さについて考えたことを表現することができた。



この他にも、月に一度実施している防災タイムにおいて、震災時に多くの人々の支えや石巻市、宮城県、国の取組があったことや、消防や警察、自衛隊、医療関係機関などの働きがあったことと、税金との関わりについて考えさせる機会を設けた。復旧・復興に向けた取組や、石巻市の未来に向けた町づくりのために支援金や特別予算が使われたことにも触れ、税金が自分たちの生活を支える上で大切なものであることに気付かせることができた。

7 成果と課題

○社会科の授業だけにとどまらず、ゲスト・ティーチャーの活用、他教科や領域での関連を図った指導など多面的な手立てを講じたことで、児童が税に関して様々な観点から考え、理解することにつながった。

<実践前の児童の意識>

*なぜ、子どもも消費税を払わなければならないのか。大人だけでいい。
*税金なんて必要ないと思う。
*税金のしくみについては、難しく、よく分からない。



<実践後の児童の意識>

◎税金があるからこそ、自分たちの安心・安全な生活があるのということが分かった。
◎アニメの中で税金がなくなった生活を見たけど、実際に起きたら嫌だなと思った。
◎税金は大切なものだと分かった。子どもも消費税を払っているけど、自分たちのためになるんだなと思った。

●税の仕組みについては、大人でも分からないことが多いというのが正直なところである。税金の仕組みや役割を正しく理解し、その知識を基に考え、実践する意識を今後も高めていきたい。

令和7年度

租税教育実践発表会資料

石巻市立万石浦中学校

教諭 佐藤 大樹

1. はじめに

本単元は中学校学習指導要領公民的分野 B「私たちと経済（2）国民の生活と政府の役割 ア（イ）及び、イ（イ）」に該当する。

経済主体の一つに数えられる「政府」は、家計や企業のみでは補いきれない諸問題へ対処するため、独自の役割を持ち、経済活動を行っている。財政の意義や必要性についての理解を深めた上で、現代社会に生じる様々な課題と関連付けながら、これからの財政のあり方について考察できる点に、本単元を学ぶ価値があると考えます。

小学校では、おおまかな税金の種類や用途について学習している。また地理分野の学習では、貿易の自由化を目指して関税を減らす、地域ごとの枠組みが結成されていることや、日本や世界の GDP とその推移などについて学んでいる。更に歴史分野の学習では、古代や近現代の日本の社会における税の種類や、過度な税負担への苦しさから起こる社会運動などについて学んでいる。

本時の指導では、財政を行う上で、政府の収入源となっている税金に焦点を当てながら、税の種類への視野を広げながら、税は誰がどのような割合で負担し、どんなことに用いられるべきかを考えさせたり、他者との意見交換から理解を深めさせたりしたい。

2. 生徒の実態（3学年2組 男子14名、女子13名、計27名）

どのような学習活動にも、前向きに一生懸命取り組むことのできる集団である。しかし、社会的な事象に対する基礎的な知識や多面的・多角的に考察する力は乏しい。税についての既習事項も含めたアンケートを実施したところ、以下のような結果が得られた（2名欠席）。

	好き	どちらかといえば好き	どちらかといえば嫌い	嫌い
社会の学習は好きですか	8	12	3	2
公民の学習は好きですか	6	10	6	3
「好き・どちらかといえば好き」と答えた生徒の主な理由 ・・・・「自分の生活と関係していると思う」、「友達の色んな考えを聞けるから」 …など 「嫌い・どちらかといえば嫌い」と答えた生徒の主な理由 ・・・・「覚えることが多い」、「公民は言葉が難しいと感じる」 …など				
知っている税金の種類を答えなさい	消費税（18人）、所得税（12人）、住民税（6人）、独身税（5人）たばこ税・酒税・ <u>分からない</u> （3人）、関税・ガソリン税・自動車税（2人）、相続税・固定資産税・宿泊税・法人税（1人）			
税金はどのように使われているのか答えなさい	公務員の給料（13人）、 <u>分からない</u> （8人）、学校などの公共施設の管理及び運営費（教科書など含む）（7人）、医療などの社会保障費（6人）、外国への支援費（5人）、道路などのインフラ整備費（4人）、被災地支援費（1人）			
今後日本の税金は増やすべきか、減らすべきか	増やすべき（0人） ・ 減らすべき（23人） ・ 今と同じ（2人） 【主な理由】 現状でさえ生活が苦しいのにこれ以上税率を上げてほしくない（複数）、稼いでいる人から多くとるのはどうなのか、ニュース等で無駄に使われているという報道がある、自分で自由に使えるお金が少なくなるから …など			

アンケートの結果から、日常生活と結びつきやすい「消費税」や「所得税」などについての知識がある生徒は、半数以上いることが分かった。しかし、税金の使い道を知っている生徒や、税率について自分なりの根拠とともに、どう変えるべきかを答えられる生徒は少なく、半分ほどの生徒は、「なんとなく

高いから」といった曖昧な理由で、「税率を下げるべきだ」と答えていた。

本単元の学習を通して、日常生活の中で私たちに関わっている税に多く触れ、税についての知識を増やすとともに、税金の用途についても丁寧に確認したい。また、近い将来親元を離れ、自立して生活することに留意させ、税の負担者や妥当性、税金が担う役割等についての意見を、自分なりの根拠とともに、表現する力を養いたい。

3. 単元の目標

(1) 知識及び技能

財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解している。

(2) 思考力、判断力、表現力

対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、財政及び租税の役割について多面的・多角的に考察し、表現している。

(3) 学びに向かう力、人間性等

国民の生活と政府の役割について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとしている。

4. 指導計画（本時 1 / 4）

節・小単元	学習内容	学習目標	評価規準
1 私たちの生活と財政	・財政 ・税金 ・累進課税	効率と公正の観点から、税金の負担者や妥当性について考察する。	税金の役割や負担率について考察し、今後の自身の生活と結びつけながら、望ましい税のあり方について表現している。(思・判・表)
2 財政の役割と課題	・社会資本 ・公共サービス ・公債	身近な社会資本や公共サービスについて調べ、政府が果たしている経済的な役割と課題を理解する。	公共サービスは、どこがどのように提供しているか、本文から読み取る学習を通して、理解している。(知・技)
3 社会保障の仕組み	・社会保障	我が国の社会保障制度の仕組みについて理解している。	私たちが日常生活の中で利用している社会保障制度について理解している。(知・技)
4 少子高齢化と財政	・介護保険制度	少子高齢社会における社会保障制度の充実と経済成長の両立が難しい理由を、増税の影響に着目して考察し、表現している。	社会保障制度の充実と経済成長との両立が難しい理由を増税の影響に着目して考察している。(思・判・表)

5. 本時の指導

(1) 題材名 「私たちの生活と財政」

(2) 本時の学習目標

効率と公正の観点から、税金の負担者や妥当性について、根拠を明確にして、自分の意見を表現しよう。(思考・判断・表現)

(3) 本時の評価

	満足できる (A)	努力を要する生徒への手立て (C)
【思考・判断・表現】	税金の役割や負担率について、現代の日本の社会の状況を踏まえて深く考察し、今後の自身の生活と結びつけながら、望ましい税のあり方について表現している。	自身の生活と直結する具体的な例を示して、改めて税について考えようとするきっかけづくりを行う。また、協同学習を通して、意見の活発な交流を図り、考えの幅を広げさせる。

(4) 本時の指導

段階	学習内容 ○主な発問・指示 ◇予想される生徒の反応	形態	・教師の支援・留意点	評価の観点
導入 7分	1 提示された2つの資料の共通点を考える。 ○「資料1、資料2は何を表したもの？」 ○「この2つの資料の共通点は？」 ◇税に関係している？ ◇え、何だろう…？	全体	・奈良時代の戸籍の資料とフランス革命の風刺画の資料の2つを提示し、ヒントを与えながら生徒から言葉を引き出す。	
展開 33分	2 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">目標 税の「これから」について自分なりの意見をもとう</div> 3 税の種類や税金の使い道を確認する。 ○「私たちが支払う税は何種類あるかな？」 ◇消費税、住民税、自動車税、所得税、…など ○「みんなから出た税の種類を直接税と間接税、地方税と国税に分類してみよう！」 ○「こうしてみんなから集めているお金はどのように使われているかを、教科書 p.164 の資料で確認しよう。」 4 事前アンケートの結果をもとに、課題について考える。 ◇「授業をする前に書いて	全体 個人 ↓ グループ 個人 ↓ 選択	・生徒の発言をもとに確認していく。 ・誰が誰に払っているのか、という視点のもとで、直接税と間接税の分類、最終的にどこに行き着くのかという視点で、国税、地方税に分類させる。 ・理由も含めて、個人で考えさせる時間を確保したのち、共有させる。 ・机間巡視をして、余裕のある生徒には、もし税金がなくなったら誰がどのように困るかを考えさせる。 ・「税金を増やすべきか、減らすべきか」という事前アンケートの全体結果を提示し、集団の意見と個人の意見を比較させる。	・ワークシートの記述【思・判・表】

	<p>もらったアンケートの結果を出すので、自分の考えと比べてみよう！」</p> <p>◇「これから3つの課題を出します。自分のできそうなものから、根拠も踏まえて取り組んでください。考えるためのキーワードは効率と公正です。」</p>		<p>また、税率についての世論も提示し、更に考えを広げさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3つの課題を提示し、自分ができそうなものから取り组ませるようにする。 ・個人で考える時間を確保した後、自由に席を移動して級友と取り組んでもよいこととする。 ・机間巡視をしながら、教科書の資料と現代の日本の社会の様子を結び付けて考えるよう声を掛け、自分事として捉えさせる。 	
--	---	--	--	--

課題①：税金は誰がどのぐらい支払ったらよいですか。

課題②：今後、日本の税率は上げるべきですか。下げるべきですか。

課題③：私たちが幸せに生活するために、税金はどのようなことに使われるべきですか。

<p>終結 10分</p>	<p>6 代表生徒の考えを聞く。</p> <p>7 本時の学習を振り返る。</p>	<p>全体</p> <p>個人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・意図的に指名し、それぞれ1つずつ、考えたことを発表させる。 ・意見交換で得た成果をもとに、自身の考えを再びまとめさせる。 ・本時の学びを自身の言葉で整理させ、基礎的・基本的知識の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートの記述【思・判・表】
-------------------	---	---------------------	--	---

6. 本時の振り返り（生徒）

- ・授業を通して、税について考えることは難しいことが分かった。自分たちの生活を1番に考えたときに、税を払うことの大変さと税を払っているから便利になっている部分とがあり、どうすることがいい選択なのかをずっと考えた。
- ・私たちが納得できるような税の使い方になっているかとそれが私たちに示されているか次第かなと思った。そうであれば、税金がある程度高いとしても、誰も文句は言わないと思う。
- ・今まで気づかなかったところにも、税がかかっていることが分かった。

7. 成果と課題

【成果】

①税についての興味・関心づくり

授業をしていて、生徒の反応や感想から積極性を感じることができた。やはり、「お金」という日常的に目に触れやすい、生徒にとって身近な題材であることが知的好奇心を高めた要因であったと考える。ねらいとしていた、「税の知識を増やすこと」については、概ね達成できたと感じた。また、協同学習を通して、級友の意見や考えと自身の意見を比較したり、活発に議論を交わしたりする姿がたくさん見られた。

【課題】

①導入が展開に生かしきれなかった

本時の導入時に歴史分野で学習した、奈良時代の戸籍の資料とフランス革命の資料を提示した。ねらいとしては、「経済の勉強なのに、歴史？」という、生徒の意表を突くことで、授業への興味付けを行うことであった。そして、展開での机間指導の際に、「国民が税に対して意見がある場合に、反乱を起こしたり、逃避したりと抵抗する姿勢を見せていたが、私たちにはどのようなアクションができるか」という補助発問を投げかけることで、考えを深めるつもりであった。また、「公民」に固執せず、分野横断的な仕掛けづくりの意図もあった。実際の授業をしてみて、学力の高い生徒には効果的であったが、下位層の生徒は理解が追い付かないまま、展開に入ってしまった。

②“税の授業”に至るまでの深まりの薄さ

今回この資料を作成する上で、年間指導計画の指導する順番から変更をかけ、公民分野に入ってからすぐに税の授業を行った。税に関する単元は、経済分野の中でも最後の方に位置しており、本来であれば、日本国憲法、政治、経済のうごきを学習してから、行うものである。前倒しで行った分、こちらの想定した、授業内での発言や課題に対しての考えの深まりには、至った生徒は少なかった。

8. おわりに

今回の授業づくりや分析を踏まえて、生徒一人一人が、税に対する自分なりの意見や考えをしっかりと持ち、それをアップデートさせるため、教員は絶えず研修を重ね、指導力に磨きをかけることが必要だと強く感じた。税の全てを理解することは容易なことではないが、必要な情報や知識を自分で集め、処理していく力は、中学生のうちに身に付けさせなくてはならないと感じる。そして、これから自立して生活していく上で、時代の流れや世の中の動きと関連付けながら、自分自身の考えを改めていく力が求められると感じる。これらの力を身に付けさせるために、私たち教員が積極的に例を示して、根拠をもとにした、自分なりの意見を説明する姿を見せるべきではないかと思う。そこには、自分だけの一方的な視点だけではなく、社会科が目指している「多面的・多角的な見方」に留意しながら、正しく最新の情報や知識を伝え、考えを深めさせなくてはならないと思う。今回の授業づくりや分析で生徒たちに十分に伝わったかというところはまだ足りないと感じるが、私自身が“税の授業”を作る上でこれから大切にしていきたいことを見出すことができた。